

# 地球温暖化防止の取り組み



## 基本的な考え方

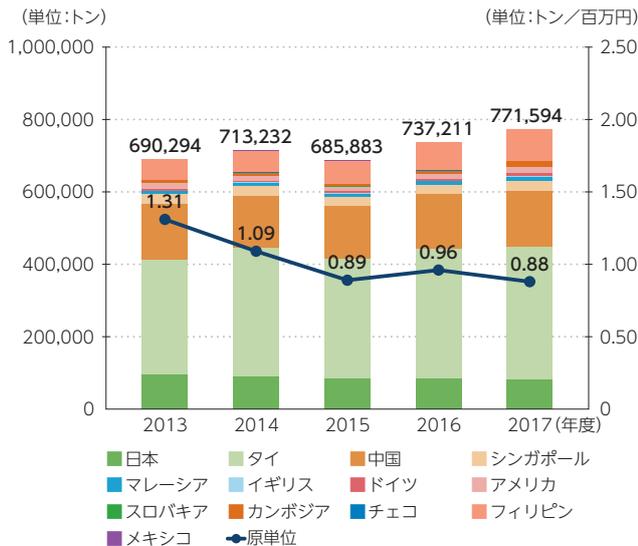
ミネベアミツミグループは、世界規模での課題となっている地球温暖化問題と、その影響によるエネルギー価格の上昇や異常気象の発生などが、事業活動の継続にも大きな影響を与えると考えています。

当社グループでは、地球温暖化防止に取り組むため、各事業所で積極的に省エネルギー対策を進めています。

## 2017年度の取り組み結果

2017年度のミネベアミツミグループ全体のCO<sub>2</sub>排出量は771,594トンで、2016年度と比較して5%増加しました。一方、生産高原単位によりCO<sub>2</sub>排出量をとらえた場合は、0.88トン/百万円で、2016年度より8%減少しました。

### ▶ CO<sub>2</sub>排出量推移(総量&原単位)



## 事業所における取り組み

### 純水 原水熱交換器増設に伴う原水ポンプの電力削減(千歳事業所)

千歳事業所では半導体生産用水として、地下水を利用しています。地下水(井戸水)から生産工程用の純水を製造していますが、井戸水の温度は年間を通して低いため、加温する必要があります。2017年度、遊休となっていた熱交換器を再利用することで、年間95万円の電力削減効果がありました。

また、今回の事例以外にも、以前から井戸水熱交換を行っており、加温のための天然ガスの使用量削減に大きく貢献しています。

## 工場の省エネルギー対策

ミネベアミツミの国内、海外工場では、省エネルギー性能に優れた高効率の空調用ターボ冷凍機やインバータ式空気圧縮機、LED照明などを積極的に導入しています。また、工場の屋根・外壁への遮熱塗料の塗布、排熱回収とCO<sub>2</sub>センサーによる外気取得制御などの対策も講じて、総合的に工場の省エネルギー性を高めています。



中国・西岑工場に導入されたターボ冷凍機

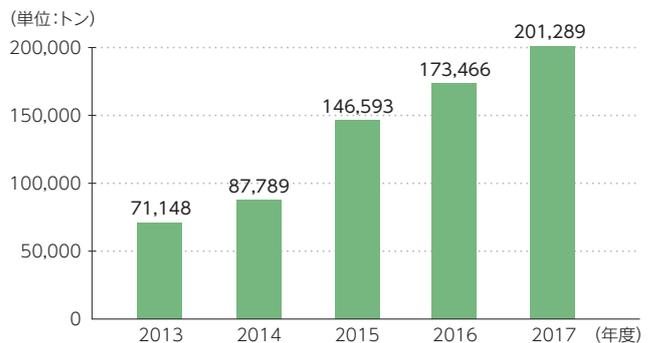
## 物流部門の取り組み

### 物流のCO<sub>2</sub>排出量

ミネベアミツミグループは自社の直接のCO<sub>2</sub>排出であるスコープ1(ガス、石油)、スコープ2(電気、蒸気、熱)のCO<sub>2</sub>排出量に加え、スコープ3(その他)となる物流(製品輸送)のCO<sub>2</sub>排出量の把握に取り組んでいます。

2017年度の当社グループの製品輸送によるCO<sub>2</sub>排出量は201,289トンで、2016年度と比較して16%増加しました。製品出荷の増加に伴う輸送量の増加や、遠方のお客様への空輸の増加が主な原因になります。

### ▶ 物流のCO<sub>2</sub>排出量



## 今後の課題・目標

ミネベアミツミグループでは、今後も引き続き地球温暖化防止に向けて取り組みを進めていきます。

2020年、2030年といった将来の長期的な展望としては、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)や各国の政策などを注視し、対策を進めていきます。